

第162期 中間報告書

2025年4月1日から2025年9月30日まで

証券コード 4613

株主の皆様へ



代表取締役社長

毛利訓士

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

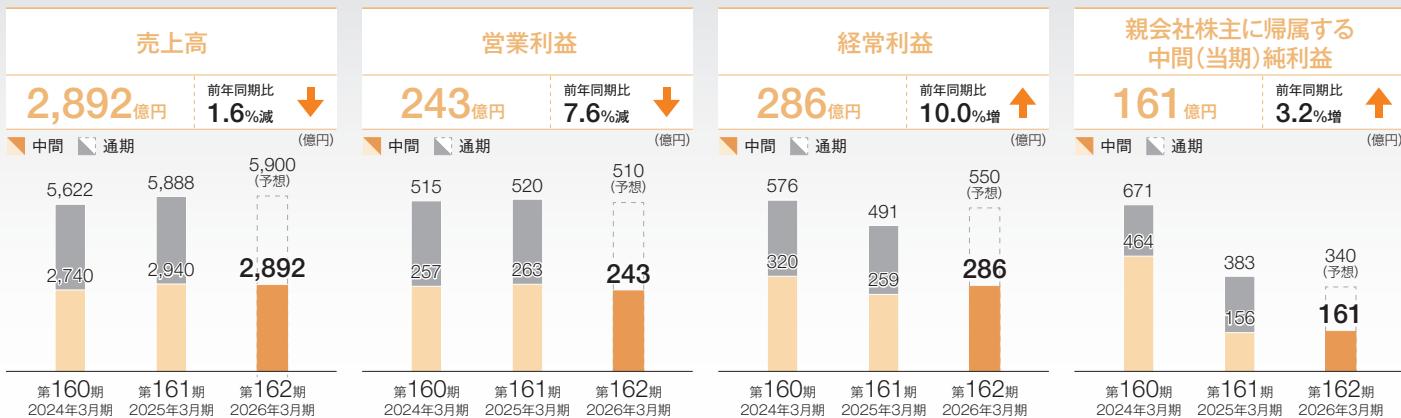
当期の世界経済は緩やかな回復基調を示したものの、地政学的リスクや米国の通商政策などにより不透明感が続きました。日本では個人消費や設備投資が持ち直し、緩やかな回復が続きました。インドは内需に支えられ堅調な成長が続きました。一方、欧州は米国の関税引き上げの影響で輸出が減速し、生産活動を下押しするとともに、インフレ率の上昇やエネルギー・人件費などのコスト増が企業収益を圧迫しました。中国では米中間の通商問題や不動産市場の停滞などを背景に景気が足踏み状態となりました。

当社グループの当中間連結会計期間における売上高は2,892億23百万円(前年同期比1.6%減)となりました。営業利益は、販売価格改善や原価低減などの施策を推進したものの、固定費の増加などにより、243億26百万円(前年同期比7.6%減)となりました。経常利益は為替差益の計上や超インフレ会計による正味貨幣持高に係る損失の減少などにより、286億6百万円(前年同期比10.0%増)となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、減損損失や事業撤退損などの一過性の特別損失の計上により、161億87百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

以上の業績から、当事業年度の中間配当金につきましては、1株につき55円とさせていただきました。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

決算ハイライト



さらに詳しい財務情報は、
当社IRサイトをご覧ください。



<https://www.kansai.co.jp/ir/>



SEGMENT OVERVIEW

地域別セグメント業績の概況



自動車分野では、自動車生産台数は前年を下回ったものの、販売価格の改善に取り組んだことにより、売上高は前年を上回りました。工業分野も拡販活動の成果により、売上高は前年を上回りました。一方、建築分野及び防食分野では、市況低調の影響により売上高は前年を下回りました。船舶分野では、足元の需要が前年を下回る水準で推移したことにより、売上高は前年を下回りました。セグメント利益は、主に自動車及び工業分野で前年を上回った一方、建築、防食及び船舶分野で前年を下回ったことから、全体では前年並みとなりました。

これらの結果、当セグメントの売上高は799億48百万円(前年同期比2.4%減)、セグメント利益は107億81百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

建築分野では、市場競争の激化や低価格品へのシフトにより売上高は前年を下回りました。自動車分野では、自動車生産台数の増加により現地通貨ベースの売上高は前期を上回りましたが、円高による為替換算の影響により、インド全体の売上高は前年を下回りました。セグメント利益は、原材料価格が安定して推移し、また持分法による投資損失は改善したもの、インフレの影響により人件費などの固定費が増加したことにより前年を下回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は701億65百万円(前年同期比6.9%減)、セグメント利益は72億63百万円(前年同期比13.6%減)となりました。

トルコでは、主要顧客の自動車生産台数が前年を下回り、売上高は前年を下回りました。その他欧州各国においては、前年に行ったボルトオン型M&Aの寄与もあり、売上高が前年を上回った結果、欧州全体の売上高は前年を上回りました。セグメント利益は、原材料価格が安定して推移し、また持分法による投資損失は改善したもの、インフレの影響により人件費などの固定費が増加したことにより前年を下回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は792億22百万円(前年同期比3.8%増)、セグメント利益は5億11百万円(前年同期比31.1%減)となりました。

中国では、自動車生産台数は前年を上回り、売上高は前年を上回りました。一方で、タイ及びマレーシアでは、自動車生産台数減少の影響を受け、アジア全体の売上高は前年を下回りました。東アフリカ地域では、主力の建築分野に加え、工業分野においても売上高は堅調に推移しました。セグメント利益は、増収の主要因である東アフリカ地域の建築分野の事業拡大により、前年を上回りました。

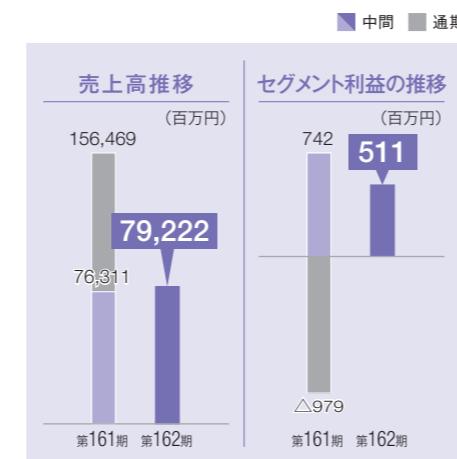
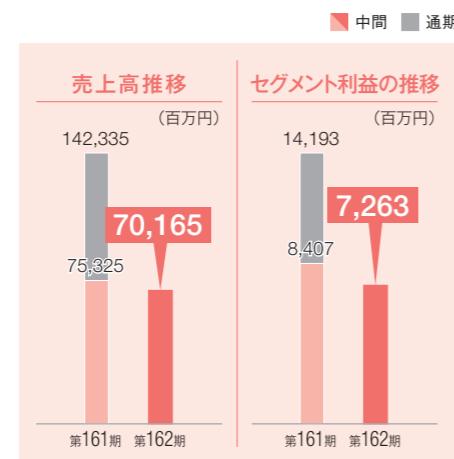
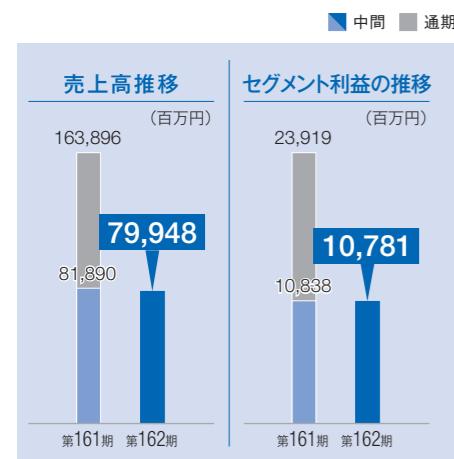
これらの結果、当セグメントの売上高は327億77百万円(前年同期比2.2%減)、セグメント利益は5億13百万円(前年同期比0.9%減)となりました。

南アフリカ及び近隣諸国は、慢性的な電力不足や政情不安が続く中にあっても、前年から新規顧客の獲得の寄与もあり、売上高は前年を上回りました。東アフリカ地域では、主力の建築分野に加え、工業分野においても売上高は堅調に推移しました。セグメント利益は、増収の主要因である東アフリカ地域の建築分野の事業拡大により、前年を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は225億73百万円(前年同期比4.8%増)、セグメント利益は22億35百万円(前年同期比29.8%増)となりました。

北米では、自動車生産台数が前年を下回り、売上高は前年を下回りました。セグメント利益については、減収の影響に加え、持分法による投資利益も減少したことなどにより、前年を下回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は45億35百万円(前年同期比16.9%減)、セグメント利益は9億92百万円(前年同期比52.4%減)となりました。



当社製品の導入実績

YASHOBHOOMI

インド最大級の展示場・コンベンションセンター「YASHOBHOOMI」は、2023年にニューデリーに開業した施設で、竣工式にはモディ首相も出席されました。

国際展示会や会議の開催地として、世界各国からの来訪者を迎える国際的な拠点であり、インドのランドマークとしても注目を集めている施設で、Kansai Nerolac Paints Limitedの塗料が使用されています。

当社グループは「塗料で人を幸せにする」をビジョンに掲げ、世界中の人々に役立つ塗料の開発と提供を目指してまいります。

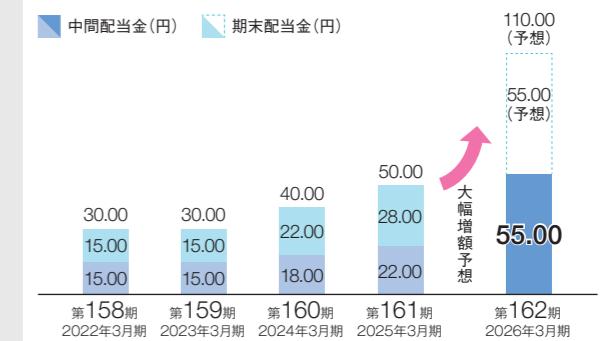


株主還元について

強固なビジネスモデルによる持続的・安定的成長力と高い資金創出能力を根拠に、「フリーキャッシュフロー100%還元及び累進配当」を株主還元方針としております。

当事業年度の中間配当金を期初の予想から1株当たり27円引き上げて1株当たり55円とし、期末配当金も同様に1株当たり55円とする予定です。この結果、当期の年間配当金は、前期比60円増配となる、1株当たり110円となる予定です。

●配当金



会社概要・株式情報

会社概要

(2025年9月30日現在)

創立	1918年5月17日
資本金	25,658百万円
主要な事業内容	塗料及び塗料関連製品とこれらに関する機器装置類の製造、販売、設計及び塗装の監理等
従業員数	1,598名 (従業員数は就業人員であり、当社外への出向者を含んでおりません。)
主要な事業所	グローバル本社 〒530-0001 大阪市北区梅田一丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス 28階 [事業所] 栃木、神奈川、愛知、大阪、兵庫、北九州 [開発センター] 神奈川

株式の状況

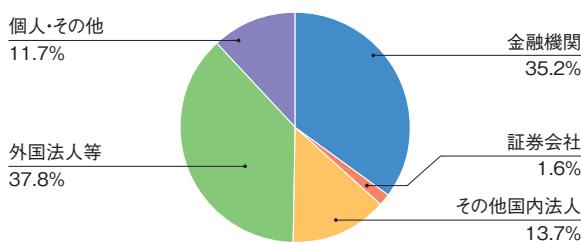
(2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	793,496,000株
発行済株式の総数	177,976,280株
株主数	16,999名
大株主	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	23,913	13.43
日本生命保険相互会社	12,490	7.01
第一生命保険株式会社	12,485	7.01
JP MORGAN CHASE BANK 380055	12,166	6.83
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,912	3.88
関西ペイント交友好株会	3,528	1.98
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3,196	1.79
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,779	1.56
株式会社扇商會	2,600	1.46
ティカ株式会社	2,547	1.43

- (注)1. 持株数は千株未満を切り捨てて記載しています。
2. 持株比率は、自己株式(1,316株)を除いて算出しています。
3. 当社は2024年9月30日付で23,482,500株の自己株式を消却いたしました。また、当社は2025年3月31日付で8,962,690株の自己株式を消却しました。これに伴い、発行済株式の総数は、177,976,280株となりました。

所有者別株式分布状況



統合報告書を発行いたしました。当社の持続可能な価値創造に向けた方針と取り組みについてご覧いただけます。

下記URLをご覧ください。

<https://www.kansai.co.jp/sustainability/library/>



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
剩余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
0120-094-777(通話料無料)
平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)

公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL (<https://www.kansai.co.jp/>)

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

(ご注意)

- 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、株主様の口座のある証券会社等にお問合せください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお支払いたします。

中間配当金のお支払について

第162期中間配当金は2025年12月1日からお支払いたしますので、同封の「中間配当金領収証」により、最寄のゆうちょ銀行または郵便局でお受け取りください。また、銀行口座へ振込ご指定の方には、「中間配当金計算書」及び「配当金振込先ご確認のご案内」を同封いたしましたので、お確かめください。

単元未満株式の買取請求または買増請求について

単元未満株式(100株未満の株式)を所有されている株主様は、これの買取請求(ご売却)または単元株式までの不足分の買増請求(ご購入)により、単元未満株式を整理することができます。詳細は、株主様の口座のある証券会社にお問合せください。なお、特別口座に記録された株式につきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。

最新のIRニュースや適時開示情報等を、
ご登録のメールアドレスにお送りいたします。

